

JCN日野ケーブルテレビ 番組審議会議事録

開催日時 平成26年3月7日(金) 16:30~18:00
場所 JCN日野ケーブルテレビ 第一会議室
出席者
番組審議会 : 鷹取副委員長、渡邊委員、谷委員、土方委員、中嶋委員、原田委員
欠席委員 : 市川委員長
会社代表 : 代表取締役 宮崎、取締役 香月
JCN代表 : 東京西エリア制作室長 荻野、事務局(小林/宮崎)
配布資料

- 1) 加入世帯数の現状と今後の営業方針
- 2) コミュニティチャンネル「JCN日野チャンネル」について
- 3) 2013年度下期放送JCNグループ本部・エリア番組ラインナップ
- 4) フリーペーパー「Hino Voice」3月号
- 5) JCNplus 3月号

本議題に入る前に、本日のスケジュールと、委員の変更1名、会社代表1名変更、委員欠席者1名が伝えられた。

1) 加入世帯数の現状と今後の営業方針(説明 宮崎)

J:COMとの統合により株式会社ジェイコム日野となることが発表されたが、地元に対する貢献度および密着度は今までと変わらないと説明があった。
このあと、資料を元に会社概要、JCNグループフィロソフィ(企業理念)について説明されたほか、加入世帯数では、テレビサービスと電話サービスについてはグループ20局中2位、インターネットが1位であることが説明された。
ただし加入世帯数の推移については、競合他社の影響により2011年をピークに減少傾向にあることが説明された。
また今後の営業方針として、J:COM統合による広域性と地元密着を重視する方針が説明された。

2) コミュニティチャンネル「JCN日野チャンネル」について(説明 香月)

自主制作番組のレギュラー番組(11番組)のほか、この1年に行われた生中継や収録番組などの特別番組(12番組)について紹介があった。
また、4月からの番組編成として、以前人気のあった「日野百景」がリフレッシュして再登場するほか、看板番組である「デイリーひの」についても、気象情報や中継などライブ感をさらに追及した番組となることが説明された。

3) 2013年度下期放送JCNグループ本部・エリア番組ラインナップ(説明 荻野)

2013年度下期の本部・エリア番組のラインナップの紹介があり、視聴者の視野を

市内だけでなく、生活圏に広げた番組制作がされていることが説明された。

また見られるチャンネルを目指し、「見る価値のある番組」、「局番組＋エリア番組による番組数の増加」でチャンネルへの誘導を促す編成を組んでいるという話があった。

このあと、「デイリーひの」特集コーナーや2月14日の大雪を伝えるニュースのダイジェスト版が上映された。

4) 番組審議委員より質問、番組に関する意見、アドバイス

・谷委員より

(問) J : COMとの統合により良くなること、悪い点は？

宮崎：良い点として、統合により削減できた費用を他のサービスに回せる。

JCNが持っていない豊富なコンテンツを楽しんでいただける。

悪い点としては、大きくなると効率化・合理化が求められる。オペレーション部のセンター化により、社内のコミュニケーションが取りにくくなる。

香月：全国区になることにより、市内の話題が少なくなるのではと若干危惧している。

宮崎：いずれにしても、地元の為に存在するという基本スタンスは変えないつもり。

・中嶋委員より

(問) 安心かけつけサポートの内容は？

香月：インターネットの各種設定について、月500円でサポートしている。

他にテレビの買い替え時など、ある程度のことは何でもお任せください。

宮崎：お年寄りのお宅では電球交換までやりたいという気持ちでやっている。

鷹取委員：プリンターのつなぎ方がわからないということでもいいのか？

宮崎：大丈夫。

・紙面「HinoVoice」「JCNplus」について

谷委員：お店の取材は誰かの紹介か？

事務局：専任のライターの紹介のほか、取材中のスタッフが見つけてくることもある。

中嶋委員：主婦はおいしいお店の情報には敏感。どのようにスタッフに教えたらいいか？

宮崎：いつでもお電話ください。

荻野：究極は市民チャンネル。一部の局では市民レポーターなどを起用し、活躍していただいている。市民の声を生かせる番組作りをしたい。

・これからの番組作り/内容について

中嶋委員：プラス志向な番組が多いのはいいが、これからは高齢化社会。老後のことを考える時代であり、不安を感じる。

日野にはどのような老人ホームあるのか、そのサービスや値段、社会保障関係の情報がほしい。

宮崎：行政の力も借りて取り組む必要があると感じている。

中嶋委員：必要を感じた時には探すけど、いざその時になると、どう調べたらいいのか分からない。

宮崎：取材するには既入居者に対する配慮が必要だが、新築のケアハウスなどを紹

介するのは簡単。

・渡邊委員より

(問) 加入のピークが2011年ということだが、先ほどの話のほかに減少の要因は？

香月：テレビは地デジが始まったことによる需要の減少が要因の一つ。

渡邊委員：世帯構成上、年寄りが多く若者が少ないというのは？

原田委員：確かに集合住宅の若い人の入居は減っている。

スマホでもテレビが見れる時代。固定電話を持っている家庭も少ない。

ただし戸建の加入は維持している。

香月：J：COMでは電力にも力を入れ始めている。

テレビ・ネット・電話に電力をセットにした戦略を考えている。

・香月：専門のチャンネルをいつでも何時間でも見られるのがケーブルテレビの良さ。

以上